

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組39 多様な課題に対応した学習機会の充実

担当課 生涯学習課

○地域の課題解決に向けた「課題解決支援講座」など、社会情勢の変化に即した多様な学習機会を提供します。

令和4年度の取組実績	・放課後子ども教室・児童クラブ、土曜スクールの関係者を対象に、放課後を利用した豊かな体験活動についての講演会を開催した。生涯学習のICT化を図るため、オンラインと参集を併用して開催した。
成果	・県内のこども園の園長を講師に招き、非認知能力の育成に資する放課後体験活動をテーマに実践事例を紹介できた。（オンラインによる参加者264人、参集による参加者33人）
課題	・参加者から要望のあった発達障害をテーマとした研修を開催する。

○県内各地で開催される講座や講師人材のデータベースなど、県民ニーズに対応した学習情報を提供します。

令和4年度の取組実績	・群馬県生涯学習情報提供システム（通称：ぐんま県民カレッジWebページ）を利用し、県内の講座・イベントやボランティア講師の情報を提供した。 ・利便性の向上を目指し、システムのリニューアルを行った
成果	・システムのリニューアルにより、検索機能の強化、スマートフォン等での操作性向上を実現できた。 ・（年間 講座登録数 133 件、登録団体数538 機関）
課題	・ぐんま県民カレッジや群馬県生涯学習情報提供システムについて、県民や利用団体に丁寧に周知する必要がある。

○効果的な講座の開催や学習情報の提供を行うため、公民館や高校、大学など関係機関との連携を推進します。

令和4年度の取組実績	・現代的課題解決支援講座Ⅰにおいて、土屋文明記念文学館と連携し不登校や障害者を対象とした企画を実施した。
成果	・フリースクールに通う児童・生徒を対象に、職員や他の参加者と交流しながら館内を見学するイベントを実施できた。
課題	・博物館等と連携した講座の企画、情報発信を図る。

○県民の学習成果を地域で生かすことができるよう、自主企画講座の開催に関する情報発信や、講師情報の市町村への提供等を支援します。

令和4年度の取組実績	・群馬県生涯学習情報提供システムを利用し、県内の個人や団体が主催する講座・イベントや講師の情報を提供した。
成果	・新規にボランティア講師3人を登録することができた。 （個人・団体が主催する講座・イベント 66 件、ボランティア講師 72 人）
課題	・ぐんま県民カレッジや群馬県生涯学習情報提供システムの認知度を上げる必要がある。

○市町村や社会教育団体等と連携し、障害のある人と障害のない人が共に学ぶ機会を充実します。

令和4年度の取組実績	・県立図書館において、視覚障害者等用図書として大活字本を購入した。（68千円、21冊） ・県立図書館において、オーディオブック（音読CD）の充実を図った。（99千円、18点） ・県立図書館が令和5年1月に導入した電子書籍サービスにおいて、読み上げ機能付き資料を購入した。（298冊）【R4新規】
成果	・視覚障害者等も利用しやすい読書環境の整備を進め、学ぶ機会の充実が図られた。
課題	・障害者の生涯学習推進に向けて、各分野の関係機関との連携に取り組む必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組40	社会教育施設の有効活用	担当課	生涯学習課、(知)文化振興課
○社会情勢の変化に即し、生涯学習の拠点として多くの県民に活用されるよう適切な施設運営に取り組みます。			
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、市町村及び関係機関・団体と連携を図りながら、生涯学習センターを拠点に多様な生涯学習活動の支援を行った。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も感染状況に対応した人数制限を行ったが、11月からは人数制限を解除し通常の定員による運営を行い、入館者数は142,139人（前年度比180.6%）と大幅に増加した。 ・貸し館利用者数も62,197人（前年度比146.6%）と増加した。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症法上の分類見直し（2類相当から5類）に伴うポストコロナを踏まえ、高齢者から乳幼児までが利用する施設として、利用者の安全確保に万全を図る必要がある。 ・今後の施設の在り方や運営体制について検討を進める必要がある。 		

○多様な県民ニーズに対応できるよう、施設職員の資質の向上及び施設・設備の計画的な更新・修繕に取り組みます。			
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県公共施設予約システム導入の際には、会計年度任用職員も含めた貸館業務を担当する全ての職員に操作研修を実施し、その後も毎年、人事異動に伴う転入者への説明を年度当初に実施している。 ・適切な換気と新型コロナウイルス感染症対策のため、体育館に換気設備を設置した。また、業務上重要な機器である電話交換機を更新するとともに、所要の補修等を実施した。 ・施設劣化の状況を把握するために必要な定期点検を実施した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や設備の欠陥、不備等による事故発生はなかった。 ・点検結果から施設の現状や問題点を捉え、次年度の修繕要望に反映した。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設置後30年以上経過していることから補修を要する箇所が多く、利用者の安全とニーズを踏まえ、計画的に補修及び整備を行う必要がある。 ・多様な県民サービスに対応できるよう、施設職員の資質の向上を図る。 		

○ぐんま天文台では、大型望遠鏡による天体観察などの本物体験の提供と、きめ細やかな教育普及活動を通して、天文・自然科学への興味・関心を高め、天文学のすそ野拡大を推進します。			
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：18,831人 ・コロナ禍において、オンラインも活用しながら天文授業サポートや出前講座を積極的に実施し、学校現場や地域への天文学の普及に貢献した。 ・YouTubeチャンネル「tsulunos」を活用して流星群や月食等のライブ配信を行った。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場や地域に赴いて天文学のすそ野を広げるとともに、動画配信等を活用することにより、多様な学習機会を提供できた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信等を活用して積極的な広報・PRを行う。 ・来館者の安全確保に配慮し、施設設備や観測機器の適正な維持管理と計画的な修繕を行う。 		

○ぐんま昆虫の森では、身近な昆虫との触れ合いや自然体験を重視したプログラムの提供を通して、生き物相互の関わり合いや、生命の大切さ、自然環境に対する理解を深められるよう取り組みます。			
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入園者数：110,661人 ・季節展や特別展、飼育講座等を実施した。 ・効果的な学校利用を促進するための教育補完施設としての機能・役割を維持した。（小学校212校利用） ・県民参加による施設づくりを実施した。（解説や体験指導ボランティア人数99人、延べ活動人数613人） 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの自然環境に対する理解を深めることに貢献している。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の特徴を生かした、季節展や特別展等の主催事業プログラムの更なる充実を図る。 ・出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。 ・インターネットを活用した情報発信の充実を図る。 		

○近代美術館では、日本と西洋の近・現代美術を中心に幅広い美術品の収集・展示、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展の開催や、教育普及活動の充実などに取り組みます。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：43,696人 ・教育普及事業参加者数：4,267人 ・来館者満足度：96%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業では、コレクション展示（展示替21回）のほか、企画展示「うるわしき薔薇」「理想の書物」「アートのための場所づくり」の3本を開催した。 ・教育普及事業では、学校団体を33団体受け入れ、20校で出張授業を行うとともに、こどもアートツアー、こども+おとな+夏の美術館、美術館アートまつり、企画展示に関する講演会等、さまざまな事業を行った。 ・フェイスブック、ツイッター、ホームページをはじめ、美術館ニュースの発行などにより情報発信を行った。 ・将来の作品収集や企画展示につなげるため、調査研究を行った
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、展示・教育普及事業等の質の向上、来館者数の維持、来館者満足度の水準確保に努める必要がある。

○館林美術館では、「自然と人間」をテーマに作品を収集・展示するとともに、学校教育との連携、幅広い年代層に向けた講演会やワークショップなどの教育普及事業などに取り組みます。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：52,098人 ・教育普及事業参加者数：5,320人 ・来館者満足度：99%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものがたりの予感」はテーマに沿ってコレクションを紹介、「ものがたり」をキーワードに別館で演劇公演への協力を行うなど新たな連携が目された。 ・「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」は、国内の4館が協力して展覧会を作り上げた。特に代表作《群馬の人》が話題を呼んだ。 ・「かこさとし」はコロナ禍にもかかわらず2万人を超える来館者が訪れる活気あふれる展覧会となった。日頃美術館に来る機会が少ない未就学児とその家族が展示を楽しんだ。 ・「山中現展」は400点近い作品を寄贈いただいたコレクターの作品を初めて披露し、独特の静謐な世界が人々を魅了した。作家とコレクターとの対談には約100人の参加者が集まった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナによる制限が解除されるため、展示室での解説会を再開させるなど、今後は物としての作品を介して来館者サービスを充実させる一年としたい。

○歴史博物館では、東国文化の中心であった群馬の特色をアピールするとともに、展示室でのタイムリーなトピック展示や企画展の開催、小・中学校の歴史教育での利用促進を行います。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：92,424人 ・教育普及事業参加者数：39,051人 ・来館者満足度：90.9%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第106回企画展「戦国上州の刀剣と甲冑」を開催し、上州甲冑師製作の兜・鎧を紹介した。 ・上野三碑がユネスコ「世界の記憶」登録5周年を迎えることを記念した第107回企画展「上野三碑の時代」を開催し、三碑が建立された古代群馬の実像や都との関わりを紹介した。 ・来館する学校団体への対応のほか、オンライン授業を実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も基本的な感染防止対策を継続しながら企画展やイベントを開催し、また学校教育との連携強化を目指していきたい。

○自然史博物館では、地球の誕生から現在まで約46億年の生命進化の歴史や本県の豊かな自然をジオラマ等で紹介するとともに、観察会など各種教育普及事業等に取り組みます。

令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者：178,995人 ・教育普及事業参加者数：29,576人 ・来館者満足度：100%（常設展示）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第66回企画展「宇宙への挑戦」を開催した。（会期 7月9日～9月11日、9月17日～11月20日。時間指定、人数制限による事前予約制） ・展示点数：368点（うち当館所蔵標本74点）、期間中観覧者数：74,700人、満足度：96%
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症再拡大時にも来館者に満足してもらえる事業づくり。 ・SNSやデジタル技術を活用し、広報活動・イベントの充実を図る。

○土屋文明記念文学館では、本県ゆかりの文学資料の収集・研究、魅力ある企画展や文学講座の開催、学校と連携して短歌を中心とする文学に関する教育普及活動などに取り組みます。

令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数：10,129人 ・教育普及事業参加者数：15,424人 ・来館者満足度 95%以上 ・展示・講座の内容 <ul style="list-style-type: none"> 第115～118回企画展（計4回） 観覧者数：9,696人 「土屋文明記念文学講座」計2回、参加者数：194人 ・教育普及事業（抜粋） <ul style="list-style-type: none"> 「歌人が学校に！」（短歌教室）8校（小学校5校、中学校2校、高校1校）、児童生徒760人 学校団体受入 10校（小学校3校、中学校3校、高校1校、大・専門3校）、児童生徒のべ489人 オンライン授業 1校（中学校1校）、生徒30人
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度企画展「ようこそ絵本の世界へ」は幅広い世代に観覧いただき、R3年度企画展「宮沢賢治」を上回る、開館から歴代第7位の観覧者数を記録した。 ・R4年度から、短歌をはじめとする様々なテーマで開催する「土屋文明記念文学講座」を新たに開始し、土屋文明の顕彰に取り組んでいる。 ・アクセシビリティの観点から、音声ガイド「ポケット学芸員」を常設展示に加え企画展示にも採用した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・開館30周年に向け、土屋文明の業績をさらに広めるため、常設展示のリニューアルと短歌コンクールの準備を進めたい。 ・企画展の回数が4回から3回に減少するが、幅広い世代に訴求する魅力的な展示構成を心がけて観覧者数を確保したい。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組41 読書活動の充実と県立図書館の機能強化 担当課 義務教育課、高校教育課、生涯学習課

○全ての県民の読書活動を支援するための環境整備を推進します。

令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 相互貸借システムの運営を行った。(利用回数: 10,955回) 図書館未設置町村の公民館図書室に対する図書一括貸出を行った。(利用冊数: 7,800冊) 円滑な物流のための市町村支援協力車の定期的な運行・居住地返却を実施した。 図書館横断検索システムの運営を行った。(利用回数292,957回) 令和5年1月に電子書籍サービスを開始した。(1,026冊)【R4新規】
成果	<ul style="list-style-type: none"> 図書一括貸出の実施により、人口の少ない地域住民へ利用可能な図書数を増やすことができた。 図書館横断検索や相互貸借システムの運営により、県内各地の所蔵資料を幅広く利用することができ、図書館の利用が促進され、県民の読書環境が向上した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 図書館横断検索や相互貸借システムの周知を行う。

○子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、学校、家庭、地域で連携した取組を進めます。

令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 全国高等学校ビブリオバトル2022群馬県大会を開催した。(参加者: 70人)
成果	<ul style="list-style-type: none"> 全国高等学校ビブリオバトル2022群馬県大会の開催により、県民に高校生の読書活動について関心をもってもらうことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭、地域における読書環境を整備する。

○県民にとって身近な市町村立図書館(室)の充実を図るため、図書館ネットワークの中核館として県立図書館による支援を実施します。

令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 相互貸借担当者会議の開催は中止となったが、動画配信で対応した。 【群馬県図書館協会事業】 図書館(室)職員初級研修を動画配信で開催した。(参加者: 115人) 図書館(室)職員実務研修を対面および動画配信で開催した。(申込者: 79人) 第108回全国図書館大会群馬大会を動画配信で開催した。(参加者: 1,677人)
成果	<ul style="list-style-type: none"> 実務的な内容を学ぶための研修会を動画配信(一部対面)により実施し、県内公共図書館員に学ぶ機会を提供できた。また第108回全国図書館大会群馬大会の開催を通じ、県内公共図書館員の資質向上を図るとともに、全国に向けて県立図書館をはじめとした県内公共図書館の活動の充実をアピールした。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 県内の公共図書館・図書室、大学図書館、学校図書館のネットワーク化を推進する。 県内公共図書館職員の資質向上及び図書館サービスの向上を図る。

○県立図書館における県民の課題解決につながる高度な専門的情報サービス(レファレンスサービス)を提供する機能を充実します。

令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 高度で専門的な調査・研究に対応するため、新たに549冊のレファレンス資料を受入・整備した。 通常のWeb検索では入手できない情報が手に入る商用データベースを提供した。 職員のスキルアップを図るため、国立国会図書館の遠隔研修動画を活用した研修等を実施した。 SNS(Twitter)を活用して、調査相談事例を紹介する記事をアップした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 県内市町村立図書館や学校図書館等で解決できない難解・高度なレファレンス事案を36件受付・回答した。 受け付けた質問を元にして、今後のレファレンスに役立つ群馬県関係の事例等を新規に202件データベースへ登録した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス技術・知識の承継を図り、より高度で専門的な調査に対応できる職員の人材を育成する。 市町村立図書館及び学校図書館等への協力レファレンスを更に推進する。 若年層へのレファレンスサービスの周知を図る。

○身近な読書環境の一つとして、県立高校における学校図書館の一般開放を行います。	
令和4年度の取組実績	・地域における新型コロナウイルス感染症の状況等を見ながら、可能な範囲で学校図書館の一般開放を行った。（県立高校59校のうち、35校で実施）
成果	・地域に開かれた学校図書館という役割を果たすことができた。 ・学校の教育活動や学校図書館への理解を深めてもらうことができた。 ・前年度よりも一般開放を行った学校が9校増えた。
課題	・学校関係者以外の方が来校するため、感染症対策も含め、生徒の安全確保について課題がある。 ・地域の感染状況等を見極め、今後の学校図書館の一般開放の在り方について検討する必要がある。

○司書教諭や学校図書館職員の専門性を高め、児童生徒が興味・関心を持って積極的に利用するような学校図書館づくりを推進します。	
令和4年度の取組実績	・図書館司書を対象とした「図書館連携推進フォーラム」をオンラインで開催した。【R4新規】 ・「学校図書館充実事業」において、各教科における学校図書館を利用した指導、学校図書館の整備・充実、学校図書館のネット環境整備の充実が図れるよう助言した。 ・指定校の公開授業及び講演会を実施するとともに、県教委HPに学校図書館年間活用計画、授業実践を掲載した。 ・12学級以上の公立小・中学校における学校司書発令状況が100%であった。 ・学校図書館研修会を動画配信で開催した。（申込者：165人） ・学校司書のための学校図書館活用講座を動画配信で開催した。（申込者：89人）
成果	・「図書館連携推進フォーラム」では、公立図書館の司書と学校司書の情報交換を行うことで、それぞれの図書館の良さや連携の必要性について共有することができた。 ・司書教諭と学校司書とが連携を図り、学校図書館の環境整備や、読み聞かせ等の読書活動の推進をすることの必要性について共有することができた。 ・有識者による講義や具体的な演習により、学校図書館の利活用に役立つ内容を提供することができた。
課題	・他課や公立図書館との連携を一層図り、司書教諭や学校司書の研修を充実させる必要がある。特に、学校司書については、出張旅費等の関係で出張ができない状況であるため、その点を考慮した研修の形を考えていく必要がある。 ・今後も、講師の選定や内容を工夫しながら、継続して研修会や講座を開催していく。

○学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の一層の充実を図り、各教科・科目等における学校図書館を利用した指導や、日常生活における読書活動を推進します。	
令和4年度の取組実績	・「図書館連携推進フォーラム」において、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の充実を図っている先進校の教員を講師に招き、取組を紹介した。 ・県教委HPに過年度実践校の学校図書館年間活用計画、授業実践、実践発表資料を掲載した。
成果	・「子供の読書活動優秀実践校」の取組をまとめ、「子どもの読書の情報館」サイトを通して情報提供することで、県内関係機関に周知できた。 ・「学校図書館充実事業」の実践校の各教科における学校図書館を利用した指導を周知することができた。 ・「読書センター」としての役割だけでなく、「学習センター」「情報センター」として学校図書館を活用する授業実践が見られ、それぞれの機能の充実が図られた。
課題	・県立図書館と連携し、より実践的な取組をもとに、3つの機能の充実に向けて学校に周知していきたい。 ・1人1台端末導入の状況下で、「情報センター」の機能の充実について検討していく必要がある。

施策の柱18における指標の状況、令和5年度の方向

指標の状況

指標		策定時		目標値	2023.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合 や数値に大幅な上下が あった場合等、説明を記 入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「ぐんま県民カレッジ」 トップページのアクセス件 数		58,798件	2017	73,800件	48,682件	2022	-67.4%	システムのリニューアル に伴い、名称を「ぐんま 県民カレッジ」に変更し た。新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため各 市町村で講座が実施され なかったことが影響し た。また、H29から有料の 民間カルチャーセンター を連携講座から除外した ため、以降のアクセス数 が減少している。
昆虫の森、天文台の入場者 数（2所の合計）		145,110人	2017	148,000人	129,492人	2022	-540.4%	新型コロナウイルス感染 症対応のために利用制限 をかけた影響が大きく、 コロナ禍以前の利用者が 戻っていない。
県立図書館におけるレファ レンスサービス件数 (事柄や事実調査、文献調 査等の専門的情報提供サ ービスの件数。利用相談(書 架案内や所蔵調査)は除 く。)		6,867件	2017	7,700件	5,024件	2022	-221.2%	新型コロナウイルス感染 症対応のために利用制限 をかけた影響が大きく、 コロナ禍以前の利用者が 戻っていない。

令和5年度の方向

- ・各館の利用を促し、その機能を十分活用してもらうために、ホームページやデータベースの改善等を図る。
- ・県立図書館では令和5年1月に電子書籍サービスを開始した。令和5年度も電子書籍の購入を継続する。電子書籍の特性を生かし、新たな利用者の増加を目指したい。
- ・各社会教育施設で実施する事業等について、対象者毎に適した広報媒体を使い分けるとともに、様々な機会を捉え、積極的に生涯学習に係る周知啓発に努めていく。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組42 地域の学びを支える人材づくり 担当課 生涯学習課

○人権教育や青少年教育等、各分野における指導者の育成を進めます。

令和4年度の取組実績	・教育事務所ごとに「群馬県人権教育の基本方針」「群馬県人権教育充実指針」に基づいた人権教育を推進するために必要な事項の研修や協議を計9回実施。619名を養成した。
成果	・感染症予防対策を講じ、実施方法を工夫（動画配信やDVD配布等）することで、多様な学習機会を提供することができた。また、そうしたことで参加者に対して地域の指導者としての人権感覚を高めることができた。
課題	・指導者養成の充実と資質の向上を図る。

○育成した指導者が、公民館や学校等地域で活躍できるよう、市町村等に働きかけます。

令和4年度の取組実績	・地区別人権教育指導者研修会において、市町村担当者に対し、指導者の積極的な活用について依頼した。
成果	・指導者の活用に関して、活躍の場の設定や指導者の意識に課題があることを市町村担当者と共有できた。
課題	・育成した指導者の活用に向け、市町村への支援について県で検討をする必要がある。

○社会教育主事、社会教育委員、市町村担当職員等、社会教育の中核となる人材の資質能力を向上させます。

令和4年度の取組実績	・県市町村社会教育主事及び関係施設職員等を対象に研修会を実施した。（Web会議システムを使用したオンラインによる研修 参加者72人） ・県市町村の新任社会教育委員等を対象に研修会を実施した。（Web会議システムを使用したオンラインによる研修 参加者169人） ・県市町村社会教育委員、生涯学習・社会教育関係団体の関係者、社会教育行政関係者等を対象に研究大会を実施した。（Web会議システムを使用したオンラインによる研修 参加者234人）
成果	・社会教育主事や社会教育委員等を対象とした各種研修会において、今後期待される社会教育の役割や県内外の先進事例について、オンラインによる講演や事例発表（動画配信）など効果的に研修することで、社会教育の中核となる人材の資質能力の向上につなげることができた。
課題	・新しい時代の社会教育推進に向けて、社会教育関係職員を対象とした各種研修がより充実した研修になるよう参集とオンラインを併用するなど、研修の方法及び内容を工夫する必要がある。

○福祉などの社会教育に関係深い部局との連携や市町村における社会教育の振興を図るとともに、各社会教育関係団体の育成及び団体間の連携を進めます。

令和4年度の取組実績	・社会教育団体に対して活動の充実を図るための事業費補助を行った。
成果	・地域における社会教育活動の活性化が図られるとともに、県が実施する社会教育推進上の諸施策にも積極的に協力していただいた。
課題	・少子高齢化等による団体活力の低下を防ぐ必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組43	青少年教育の推進
担当課	高校教育課、生涯学習課、(知)生活こども課、(知)児童福祉・青少年課

○自然体験や各種体験活動を通じて、青少年の豊かな人間性や社会性を育みます。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家2所にて、林間学校等で利用する学校等に対し各種プログラムを提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ○提供プログラム：野外炊事、キャンプファイヤー、登山、クラフト作成等 ○学校等利用団体数：242団体
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年自然の家の管理運営を通して、生活体験や自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの「生きる力」の育成に貢献している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境及び地域の伝統・文化等、各所の特色を生かし、各事業のプログラムの充実を図る。 ・学校や青少年団体、家族、企業等の利用拡大に向け、動画やSNSを活用した広報の推進を図る。

○親子や異年齢・異世代での体験活動・集団活動を通じて、家庭や地域の教育力の向上を目指します。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家2所にて青少年自然体験事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○親子体験活動（親子キャンプ、登山、バードウォッチング等）参加者数 延べ132人 ○自然体験活動（オープンデー、ふれあい塾、出前講座等）参加者数 延べ1,069人 ○宿泊自然体験活動（1泊2日程度の長期キャンプ）参加者数 53人
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年及びその保護者を主たる対象として、様々な自然体験活動を提供することにより、青少年の主体性や協調性、社会性、問題解決能力等「生きる力」を育成するとともに、家庭や地域の教育力向上にも資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、青少年団体等のニーズに沿った新規プログラムを開発し、提供していく。 ・出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。

○青少年のボランティアを養成するとともに、ボランティア活動の場を提供します。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家2所における実施 <ul style="list-style-type: none"> ○青少年ボランティア養成 延べ76人受講、青少年ボランティア体験 延べ195人参加 ・（公財）県青少年育成事業団による指定管理事業による実施 <ul style="list-style-type: none"> ○こどもふれあいワークショップ 15人受講、中学生・高校生交流ボランティア体験 8人参加
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の心構えや留意点等について講義・演習を実施するとともに、ボランティア活動の場を提供することにより、社会の構成員としての規範意識や責任感、倫理観等を身に付けた青少年ボランティアの育成に資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成では、各所の自然環境等を有効に活用し、講義・演習のプログラムについて充実を図る。また、必要に応じて動画配信等を活用していく。 ・ボランティア体験では、より多くの中高校生が参加しやすいような実施時期及び日程を検討するとともに、SNS等を活用した広報を行う。

○不登校、非行、ひきこもり等、様々な悩みを抱える青少年及びその保護者等を対象に、相談活動や体験活動を通して自立・再学習支援事業を行うほか、青少年の意欲を高め、自立を促す活動プログラムを効果的に実施します。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）を実施した。 相談等延べ件数：693件、体験活動実施数：23件（延べ23件）、進路相談会：2回開催 ・学びを通じたステップアップ支援促進事業を実施した。 学習相談：560人、学習支援：計60日実施、参加延べ人数150人 ・子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、高校中退者等訪問支援事業により支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。（訪問支援継続中15件）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援を継続的に行うことで、復学や進学、高卒認定試験の受験等につながった利用者も見られた。相談活動・体験活動・学習支援等の提供を通して、当該青少年の自立や保護者への支援に資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出ができない引きこもり状態の利用者に対して、本人の希望に沿った形での相談方法を検討していく。また、必要に応じて関係機関との連携を図りながら支援を行っていく。 ・支援を必要とした若者が本事業につながるよう、広報活動を充実させ事業周知に努める。 ・関係機関が連携した、切れ目のない支援が必要である。

○青少年関係団体の活動の活性化を通じた青少年健全育成を目指し、県内全域で活動する青少年団体との連携や団体への支援を行います。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育（青少年教育）関係団体事業補助金を実施した。 （青少年教育関係3団体（日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会）における活動に対して補助金を助成。（総額833千円：催事補助金）） ・青少年健全育成に係る事業の実施、指導者育成を実施した。 ・子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、高校中退者等訪問支援事業により支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会への補助金による支援を通して、青少年健全育成の一助とすることができた。 ・群馬県子ども会育成連合会と共催で上毛カルタ競技県大会を3年ぶりに開催することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織に属していない一般の青少年も参加可能なイベントの実施について、推進していくことが望ましい。 ・関係機関が連携した、切れ目のない支援が必要である。

○中・高校生が将来の家族形成を含めた人生設計を考えるため、自らのライフデザインを考える機会の創出に取り組みます。	
令和4年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業において、青年期の自立や課題、子どもや高齢者の生活と福祉などの学習を通して、生徒の様々な人々に対する理解を深めるよう取り組んだ。 ・家庭や地域社会の果たす役割や、共に支え合って生きる社会の重要性等、ライフデザインについて考えさせるよう取り組んだ。 ・高大連携ライフデザイン支援事業 高校生を対象にライフデザインについて主体的に考える機会を提供するため、県内大学・高校が連携し、高校生と大学生とのワークショップ形式の授業等を実施した。 ・ライフデザインセミナー（県職員による出前講座） 県内高校で人口減少の問題やライフイベントについて学ぶライフデザインセミナーを実施した。 ・若者の人生設計応援！事業補助金 民間団体等が行う若者向けライフデザイン支援の取組に係る経費を補助した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習等を通じて、生徒が人生の各ライフステージの特徴と課題について学び、自立した生活を営むための意思決定やライフデザインの在り方について、将来の生き方の構想を描く一助とすることができた。 ・家庭や地域社会の果たす役割、共に支え合って生活することの重要性について生徒に認識させることができた。 ・セミナーやワークショップで生徒が人生の各ライフステージの特徴や課題について学び、他者と意見交換等を行うことを通じて、自分が希望する将来に向けてのライフデザインを考える機会を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高校生は「キャリアデザイン」に比べ、自らの「ライフデザイン」を考える機会は充分であるとは言えないため、様々な機会の創出を進める必要がある。 ・自己実現、将来の家庭生活などについて考え、自立や家族・家庭の在り方、子供や高齢者の生活などについて理解し、共に協力していくことの重要性を理解する必要がある、引き続き継続して実施する必要がある。

施策の柱19における指標の状況、令和5年度の方向、基本施策8に対する点検・評価委員会の主な意見、全体に対する点検・評価委員会の主な意見

指標の状況

指標		策定時		目標値	2023.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合 や数値に大幅な上下が あった場合等、説明を記 入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「青少年ボランティア養成事業」に係る事業への参加者数（県立青少年自然の家2施設＋青少年会館の合計）		584人	2017	650人	294人	2022	-439%	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業規模を縮小 ・妙義青少年自然の家の廃止

令和5年度の方向

・ボランティア養成事業では、各所の自然環境等を有効に活用するとともに、ボランティア活動を行う際の心構えや留意点等、受講者がボランティアの基礎を一通り学べるよう、講義・演習のプログラムについて充実を図る。

・ボランティア体験事業では、中高生が参加しやすいように主催事業及び夏季休業中だけでなく、秋から冬にかけての土日にも募集を行う。また、アフターコロナを見据えコロナ禍で減少した宿泊事業を徐々に増やし、参加者の希望で日帰りか宿泊かを選択して参加できるようにする。

・ボランティア活動に興味がある若者が情報を得られるように、SNS等のインターネットを活用した広報活動を充実させ事業周知に努める。

・各社会教育施設で実施する事業等について、対象者毎に適した広報媒体を使い分けるとともに、様々な機会を捉え、積極的に生涯学習に係る周知啓発に努めていく。

基本施策8に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

・群馬県の社会教育では、施設における資料の展示等と併せて、ICTの活用方法にも工夫が見られ、「リアルとデジタル」の両面から力強く取組を推進している。

課題

・障害者の生涯学習について、群馬県では学校卒業後の学びの機会が限られていると感じるため、他の自治体の取組も参考にしながら充実を図っていく必要がある。

全体に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

・子どもたちが主体的に課題解決の方法を考える教育活動が、様々な場面で行われている。

課題

・子どもの貧困の問題やヤングケアラーへの支援等については、知事部局と教育委員会が十分に連携し、福祉や医療等の関係機関と協力しながら対応していく必要がある。